

令和3年度(第14回)「国土交通大臣賞(循環のみち下水道賞)」

イノベーション部門

応募事例名

東京下水道と中野区との連携による下水熱利用 (中野区立総合体育館)

応募団体名)東京都下水道局・中野区

応募事例の概要

中野水再生センター上部を活用し、中野区が
中野区立総合体育館を整備

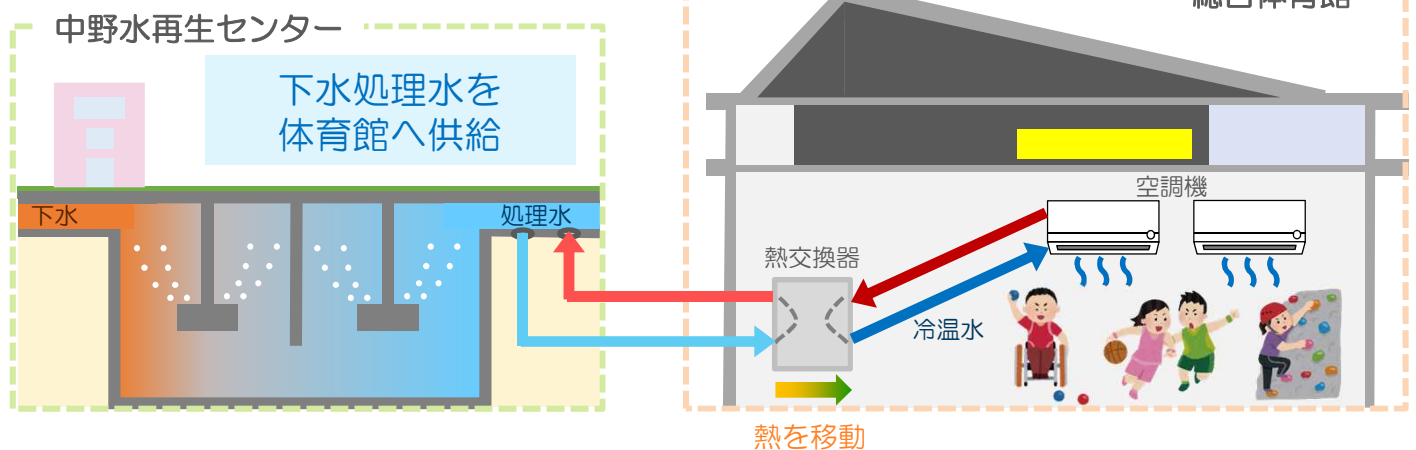
中野水再生センターから下水処理水を供給し、
再生可能エネルギーである下水熱を体育館の
冷暖房用の熱源として利用



中野区立総合体育館
(愛称:キリンレモンスポーツセンター)

都と区が連携し、低炭素まちづくりを実現

下水熱利用のしくみ



PRポイント

- ①下水熱の利用により、一般的な空調と比較し、**CO₂排出量を約3割削減**
(年間約85t)
- ②省エネルギー化・温室効果ガス排出量の削減を推進し、環境負荷低減の
面から中野区のまちづくりに貢献



東京都下水道局
計画調整部 エネルギー・
温暖化対策推進担当課長
宗吉 統

・環境負荷の低減という共通の目的に向けて、事業スキームの構築や送水ルートを検討などの課題について、中野区と議論を積み重ねることにより事業を実現させることができました。

・都と区との協力により実施する本事業が、総合体育館の利用者をはじめ都民への環境負荷低減の啓発につながり、当施設が単なる体育館でなく、地球環境保護のシンボルとなることを期待しております。



中野区 健康福祉部
スポーツ振興課長
古本 正士